

## 1 自己評価

- |                  |
|------------------|
| I 評価結果（別紙参照）     |
| II 分析・改善方策（別紙参照） |

## 2 学校関係者評価委員

岡崎 正和（学校評議員）	珍行 志織（学校評議員・P T A役員）
金田ゆかり（学校評議員）	景山 由美（P T A役員）
黒田 和子（学校評議員）	柏野 妙子（P T A役員）
大澤 和弘（学校評議員）	馬場 和子（P T A役員）

## 3 学校関係者評価

今年度、D Xハイスクール事業への採択により、総合的な探究の時間の充実に向けた環境整備やカリキュラム研究を着実に実施していた。また、探究のアウトプットの場である外部コンテスト等へ生徒を積極的に参加させたことは、生徒の視野を広げ、自信を持たせることに繋がっており、大変評価できる。今後は、探究内容の深化とともにプレゼンテーションスキルの向上に期待したい。また、総合的な探究の時間だけでなく、教科の授業や特別活動など教育活動全般を通じてデジタル等の成長分野を支える人材を育成してほしい。

授業においては、探究的な学びを通じてスクール・ポリシーに掲げた3つの力を身に付けさせるように、教職員の継続的な授業改善が重要だと考える。年2回実施している教職員アンケートを分析・整理し、全教職員に還元するとともに、各教科における授業改善に向けた研究を進めてほしい。また、毎年実施している授業参観を定着させることで、お互いが学び合う風土をより高めてほしい。

授業以外では、オープン講座（大学等による出前講座）や公民館主催の小中学生を対象としたボランティア活動、小中高が連携した教員養成に係る活動等を通じて、生徒のキャリア教育を充実させるとともに、小中学生が岡山芳泉高校に憧れを感じたり地域の人々が現在の高校教育を知ったりできる良い機会となっている。社会に開かれた教育課程の実現に資する素晴らしい取組であり、今後も継続してほしい。

以上のような特色ある教育活動を通じて、生徒が主体的に学びに向かうことができている。この活動を持続するためにも、教職員の働き方改革を一層行い、教員が生徒にしっかり向き合える体制を整えてほしい。

## 4 来年度の重点取組

総合的な探究の時間を軸とした探究的な学びの充実及び体系化を引き続き進めていく。また、外部と関わる機会を充実させ、生徒に社会との繋がりやキャリア意識の向上を図る。これらの特色ある教育活動を、より多くの中学生や地域の方々に知ってもらうため、情報発信や広報活動を強化するとともに、教育活動を実施する生徒や教職員が充実した学校生活を送れるよう、業務の精選等による働き方改革を一層進める。